

切な防染剤を配合し得る基礎を作る目的で行なった。  
2. 防染剤には140°パラフィン、125°パラフィン、白ろう、蜜ろう、ステアリン酸、ロジン、石油樹脂等用いた。付着性はガラス面および同大のセロテープを裏面に密着させた綿ブロード(100×70mm)に0.1,0.3,0.5mm厚さの防染剤の膜を作り、20°Cの恒温室中にて日本塗料検査協会の管理基準および取扱い基準による描画試験、クロスカット試験、エリクセン試験を行ない、針入度はJISK2808アスファルト針入度試験器によって行なった。

3. 描画・クロスカット試験の結果 蜜ろう、白ろうは付着性がよく、ロジン、石油樹脂は剝離し易い。エリクセン試験の結果も蜜ろうは付着性よく、クラックは140°パラフィンに多く、膜厚の大きなものはどクラックが多い。なお造膜際の温度、造膜後試験実施までの経過時間が試験結果に影響する。布上の防染剤の膜厚が0.1mmでは、いずれも防染性はないが、0.3mmでは防染性があり、0.5mmになっても大差がない。なおセロファン上の防染性についても報告する。

#### B-38 ろう染めにおける防染剤に関する研究 (第1報)

大妻女大家政 ○加藤 敏子  
林 百子  
鈴木 順子

1. ろう染めの歴史は古く、現在も広く行なわれているが、防染剤についての科学的研究はきわめて少ない。本研究では従来使用されている防染剤と、防染剤としての可否を検討するため加えた薬剤につき、粘度・針入度・浸透性・付着性・防染性等について実験し、防染剤についての基礎的知見を得、かつ使用時・使用目的に適